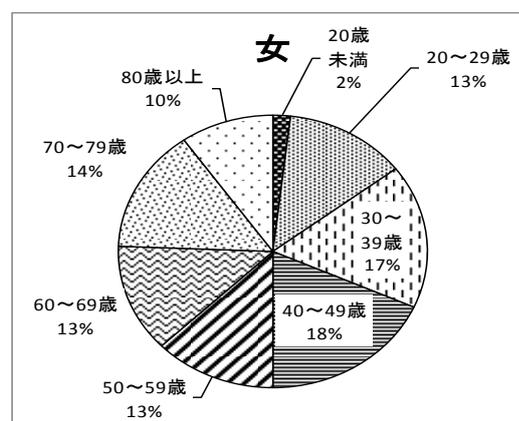
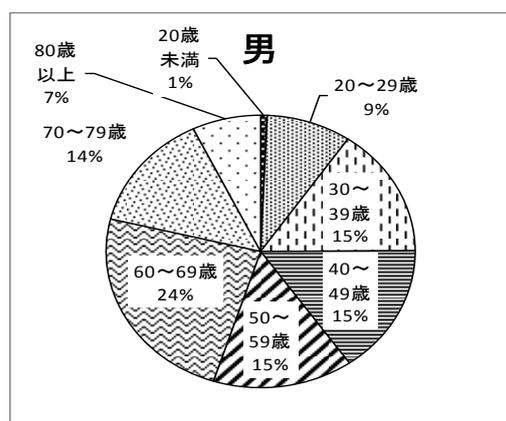
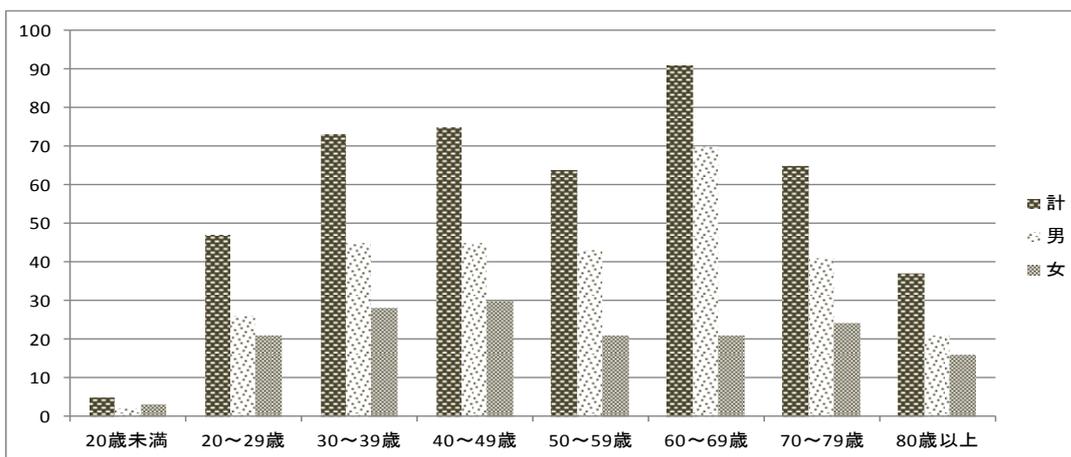


# 資料編

## 1. 2016（平成 28）年の大阪市の自殺の現況

### （1）年齢別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

- ・ 平成 28 年の自殺者の総数は 457 人で、男性が 293（64%）、女性が 164（36%）であった。
- ・ 男女比は 1.79：1 と全国値（2.30：1）より低かったが、平成 10 年以降の自殺死亡総数の男女比は、大阪市も全国もほぼ同じであった（大阪市 2.50：1、全国 2.47：1）。
- ・ 年齢層別にみると、男性では 60 歳代が最も多く、それに続く 30 歳代、40 歳代、50 歳代、70 歳代はほぼ同数となっており、20 歳代、80 歳代がこれに続いた。女性では、40 歳代が最も多く、次の 30 歳代もほぼ同数であり、これに続く 70 歳代、60 歳代、50 歳代、20 歳代はそれぞれがほぼ同数であった。年齢の中央値は、男性で 50 代前半、女性で 40 代後半であった。同年の全国値と比較すると、男性で 60 歳代の割合が多く（全国値 16%）、女性では 30 歳代（同 12%）、40 歳代（同 15%）の割合が高くなっていた。なお、男女総計における 20 歳代、30 歳代の割合は、全国的にこの年代の自殺死亡率が高くなっていた平成 19 年とほぼ同じであった。



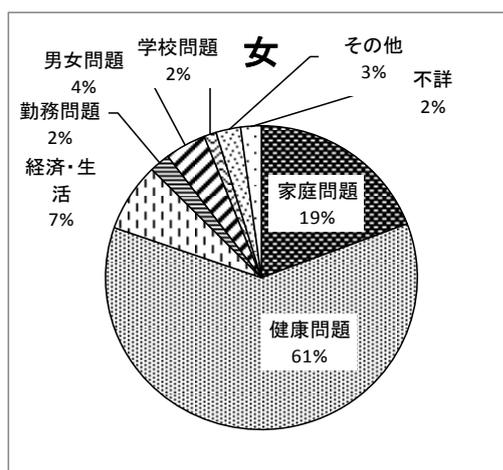
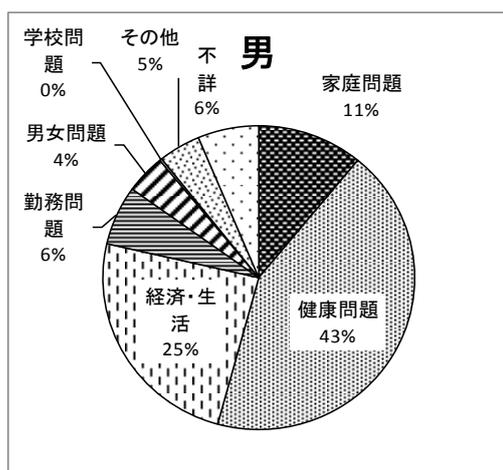
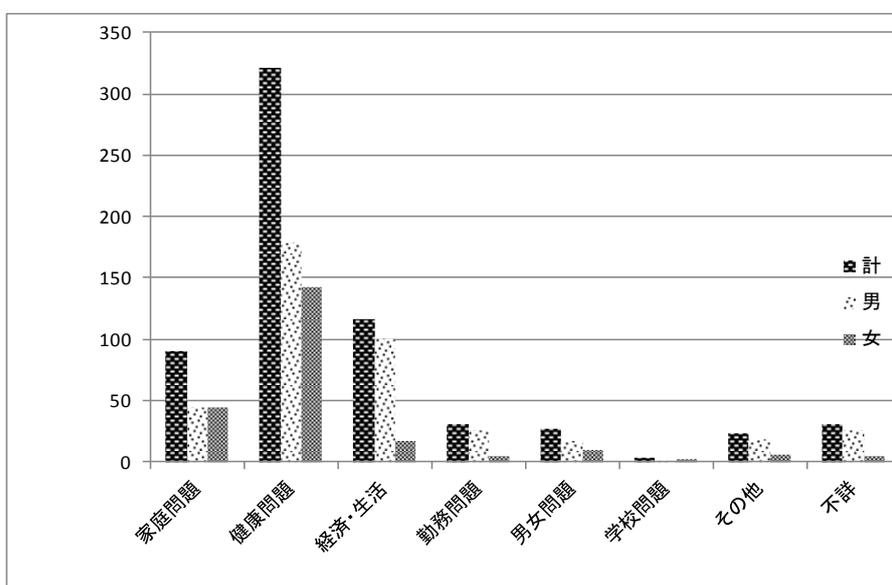
年齢別男女別

年齢	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
計	5	47	73	75	64	91	65	37	457
男	2	26	45	45	43	70	41	21	293
女	3	21	28	30	21	21	24	16	164

(2) 原因別・男女別自殺者数 (内閣府・警察庁統計)

(注: 遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を、自殺者一人につき3つまで計上可能として警察庁が集計した結果)

自殺の原因・動機としては、男性では健康問題(43%)が最も多く、次に経済・生活問題(25%)が多く、家庭問題(11%)、勤務問題(6%)、男女問題(4%)がそれに続いた。女性でも健康問題(61%)が一番多かったが、その割合は男性より大きく、次に家庭問題(19%)、経済・生活問題(7%)、男女問題(4%)、勤務問題(2%)、学校問題(2%)がそれに続いた。男女ともに、上位3位の原因・動機の割合については全国値の傾向もほぼ同様であった。

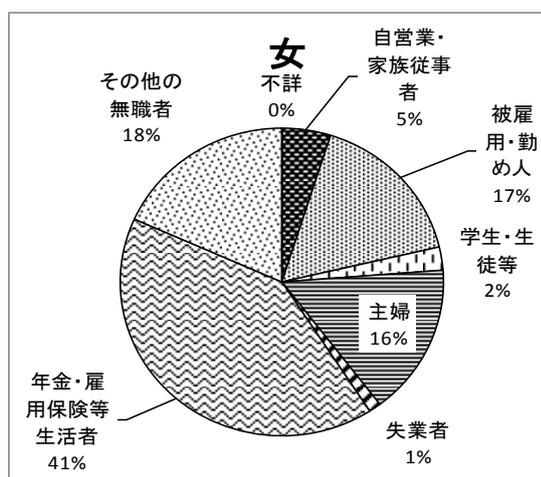
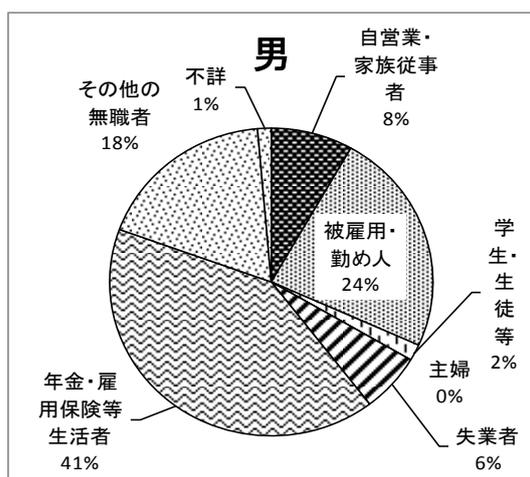
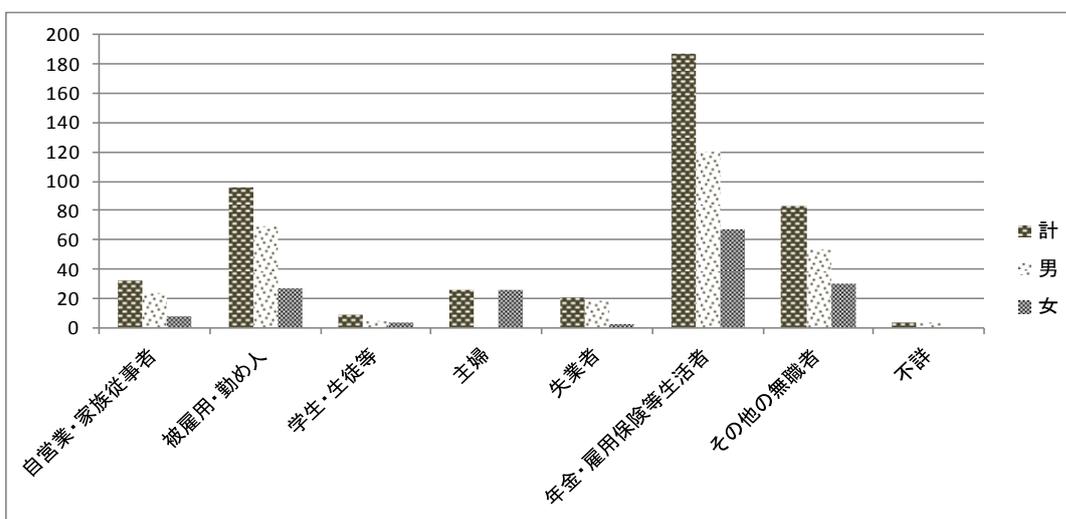


原因別・男女別

原因	家庭問題	健康問題	経済・生活	勤務問題	男女問題	学校問題	その他	不詳	計
計	90	321	117	31	27	4	24	31	645
男	45	178	100	26	17	1	18	26	411
女	45	143	17	5	10	3	6	5	234

(3) 職業別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

- ・ 男性では年金・雇用保険等生活者の割合が最も多く（41%）、続いて被雇用・勤め人（24%）、その他の無職者（18%）、自営業・家族従事者（8%）、失業者（6%）、学生・生徒等（2%）の順であった。
- ・ 女性では年金・雇用保険等生活者の割合が最も多く（41%）、続いてその他の無職者（18%）、被雇用・勤め人（17%）、主婦（16%）、自営業・家族従事者（5%）、学生・生徒等（2%）、失業者（1%）の順であった。
- ・ 全国値と比較すると、本市の男性では年金・雇用保険等生活者の割合が高く（全国値 23%）、逆に被雇用・勤め人の割合が低く（全国値 35%）、女性では年金・雇用保険等生活者の割合が高い傾向（全国値 32%）がみられた。

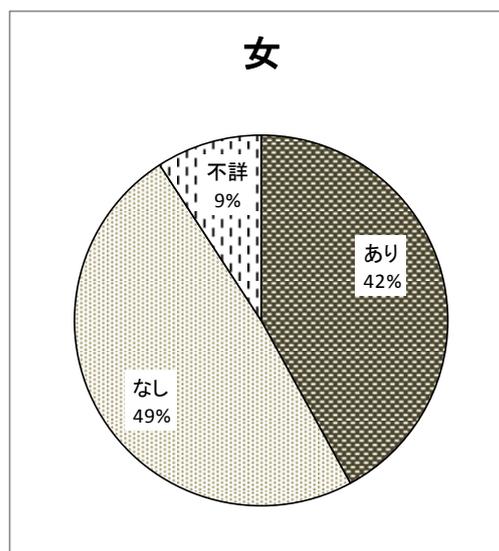
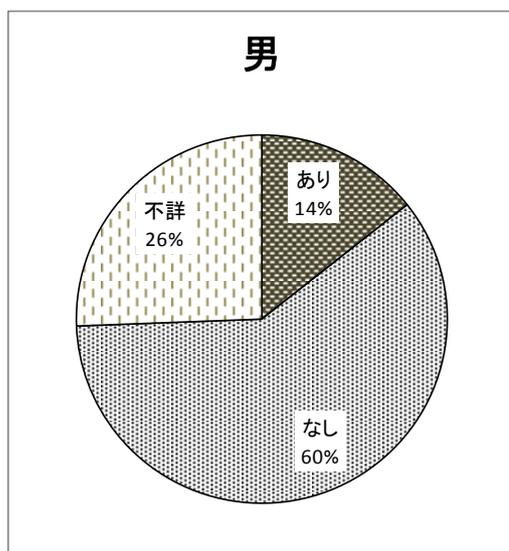
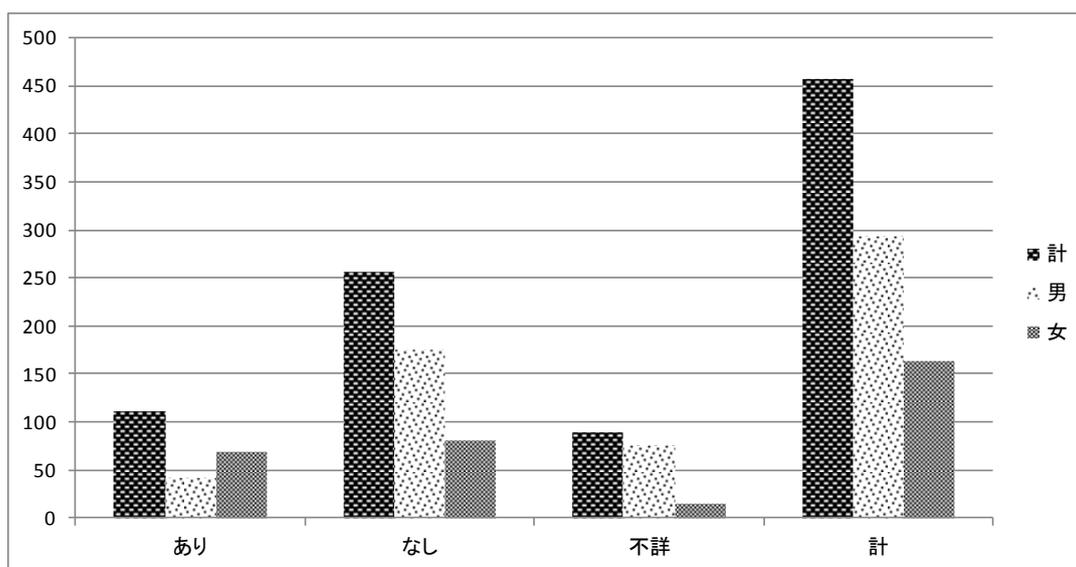


職業別・男女別

職業	自営業・家族従事者	被雇用・勤め人	学生・生徒等	主婦	失業者	年金・雇用保険等生活者	その他の無職者	不詳	計
計	32	96	9	26	20	187	83	4	457
男	24	69	5	0	18	120	53	4	293
女	8	27	4	26	2	67	30	0	164

(4) 既遂者における自殺未遂の有無・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

- ・ 自殺者のうち、男性では自殺未遂歴「なし」が 60%（全国値 65%）、「あり」が 14%（全国値 15%）と、「なし」の割合が全国値より低かった。ただし、「不詳」の割合（26%）は全国値（19%）より高かった。
- ・ 女性では自殺未遂歴「なし」が 49%（全国値 56%）、「あり」が 42%（全国値 29%）と、「あり」の割合が全国値より高かった。「不詳」の割合（9%）は全国値（15%）より低かった。

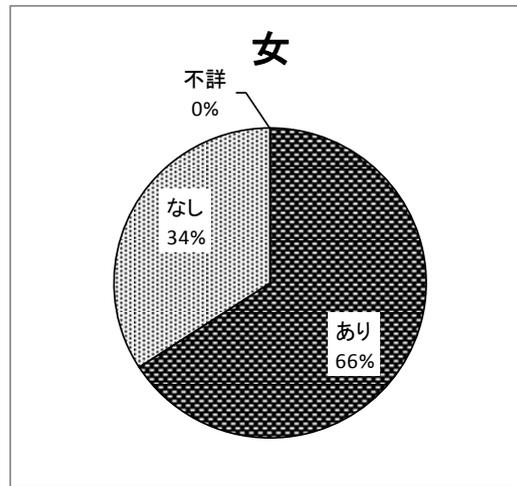
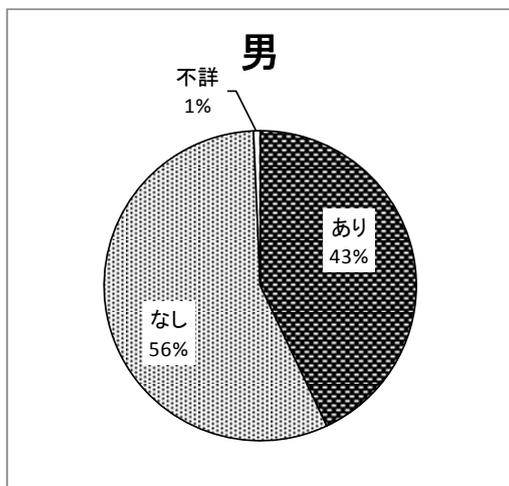
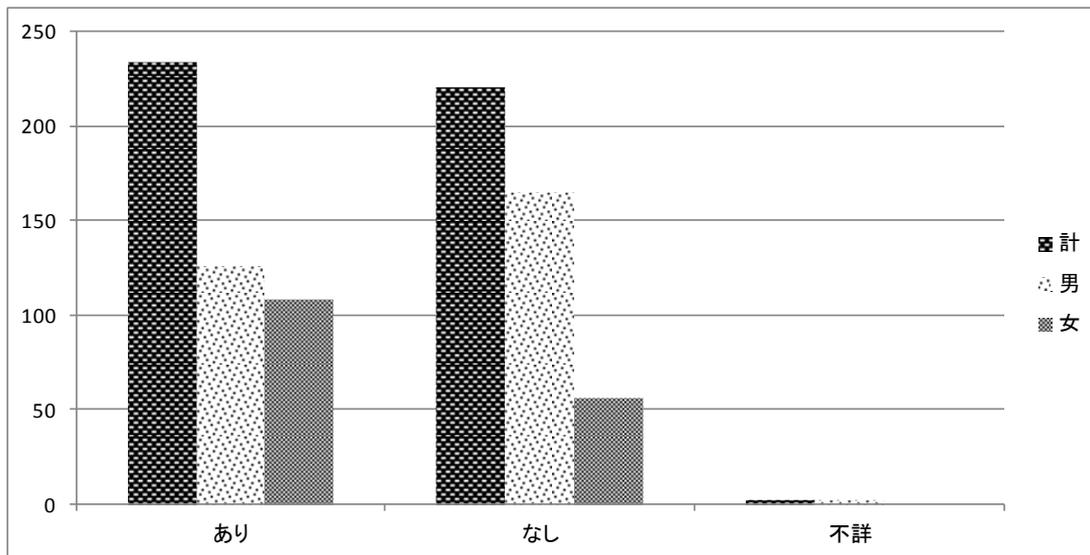


既遂者における自殺未遂の有無・男女別

自殺未遂	あり	なし	不詳	計
計	111	256	90	457
男	42	176	75	293
女	69	80	15	164

(5) 同居人の有無・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

- ・ 自殺者のうち同居人のいる割合は、男性で43%、女性で66%であり、それぞれ全国値（男性64%、女性74%）より低くなっていた。



同居人の有無・男女別

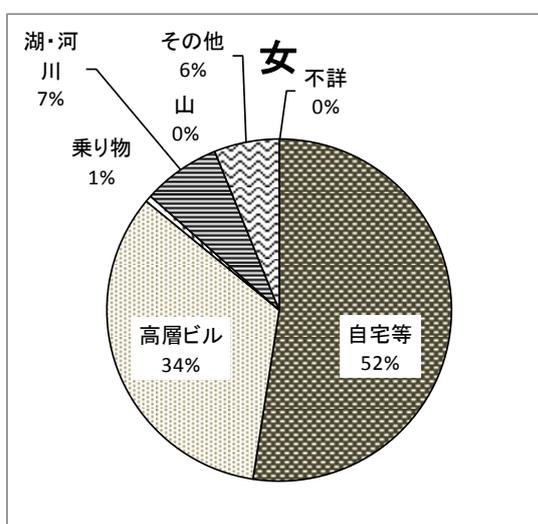
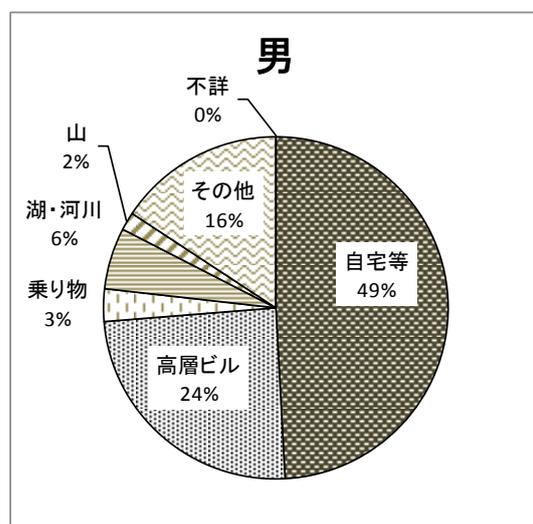
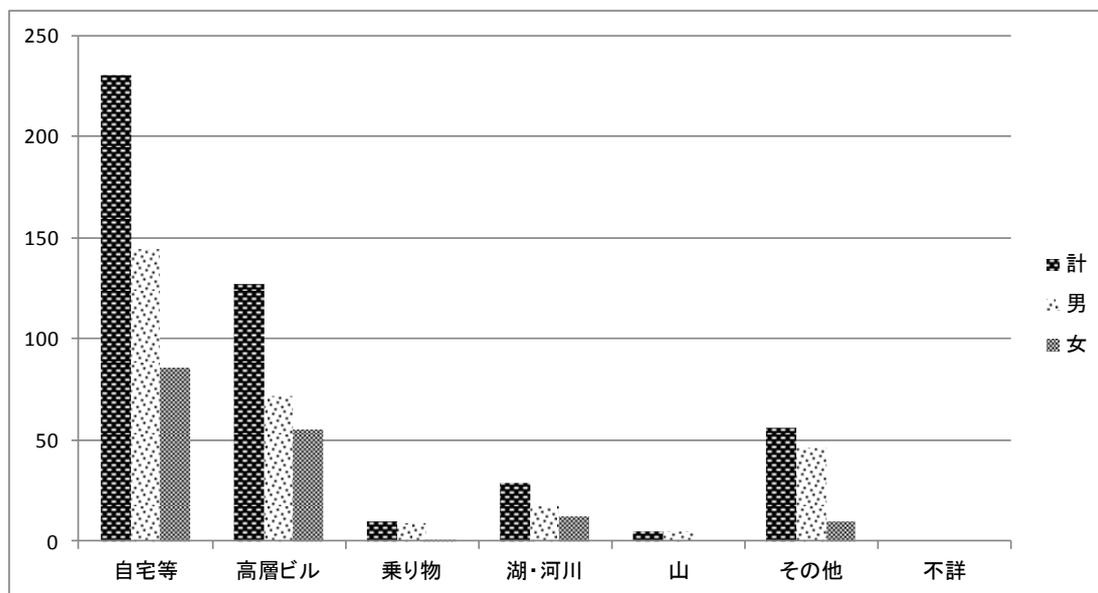
同居人	あり	なし	不詳	計
計	234	221	2	457
男	126	165	2	293
女	108	56	0	164

(6) 場所別・男女別自殺者数 (内閣府・警察庁統計)

- 男女ともに自宅、高層ビル、海(湖)・河川の順が多かった。全国値に比べると、男女ともに自宅と乗り物の割合が低く、高層ビルの割合が高かった。

男性全国値(上位3位): 自宅56%、乗り物8%、高層ビル5%

女性全国値(上位3位): 自宅65%、高層ビル10%、海(湖)・河川6%



場所別・男女別自殺者数

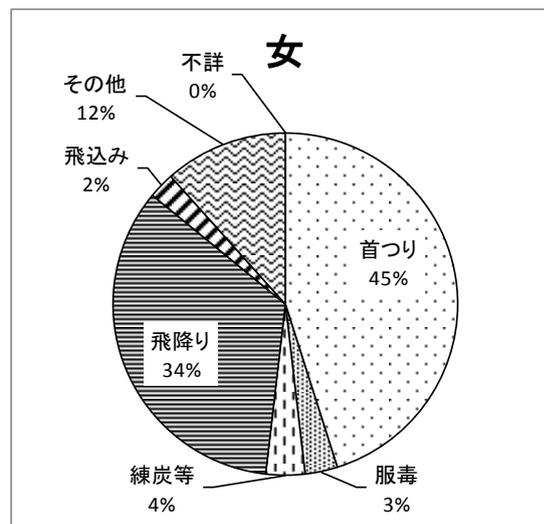
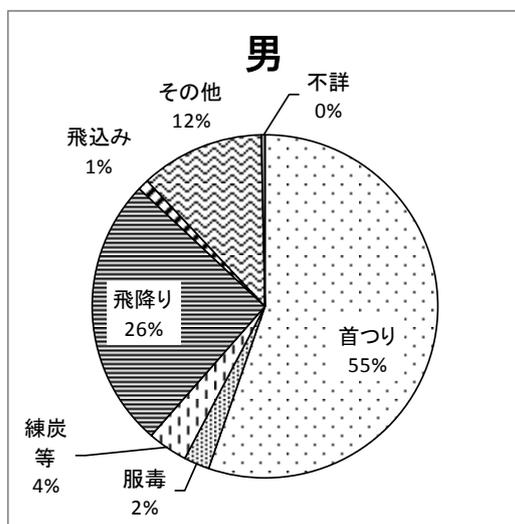
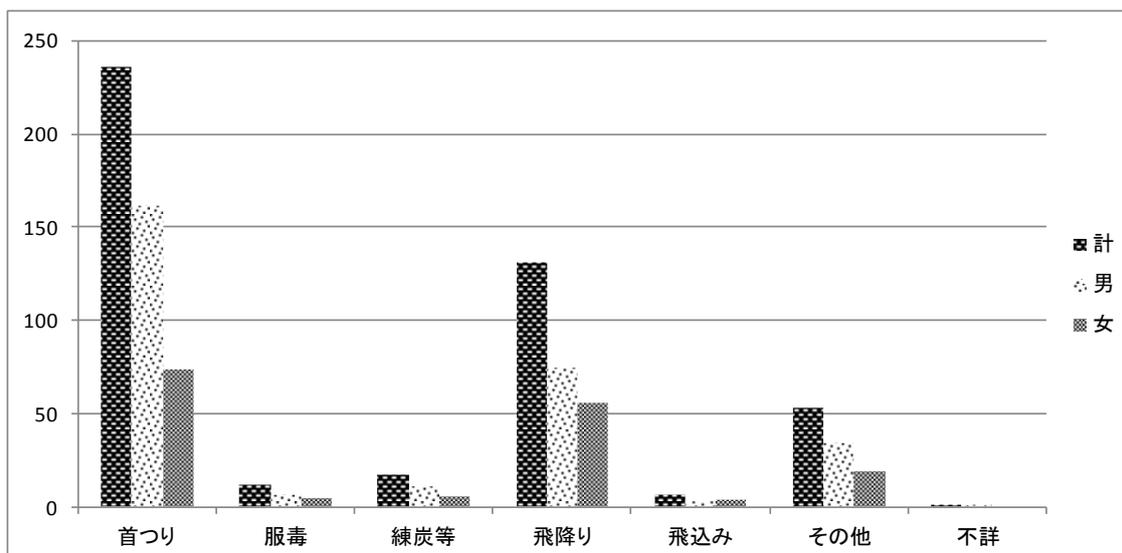
場所	自宅等	高層ビル	乗り物	湖・河川	山	その他	不詳	計
計	230	127	10	29	5	56	0	457
男	144	72	9	17	5	46	0	293
女	86	55	1	12	0	10	0	164

(7) 手段別・男女別自殺者数 (内閣府・警察庁統計)

- 男女ともに、首つり、飛降り、練炭等、服毒、飛込みの順で多かった。全国値に比べると、男女ともに首つりの割合が低く、飛降りの割合が高かった。

男性全国値 (上位3位) : 首つり 68%、飛降り 9%、練炭等 8%

女性全国値 (上位3位) : 首つり 59%、飛降り 14%、入水 6%

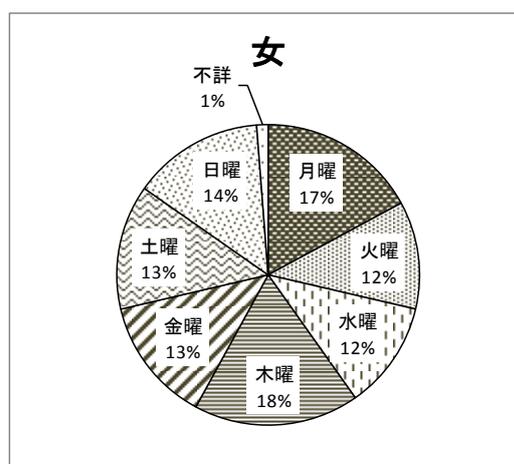
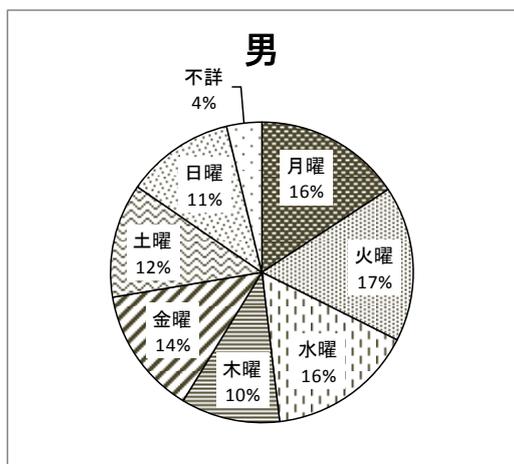
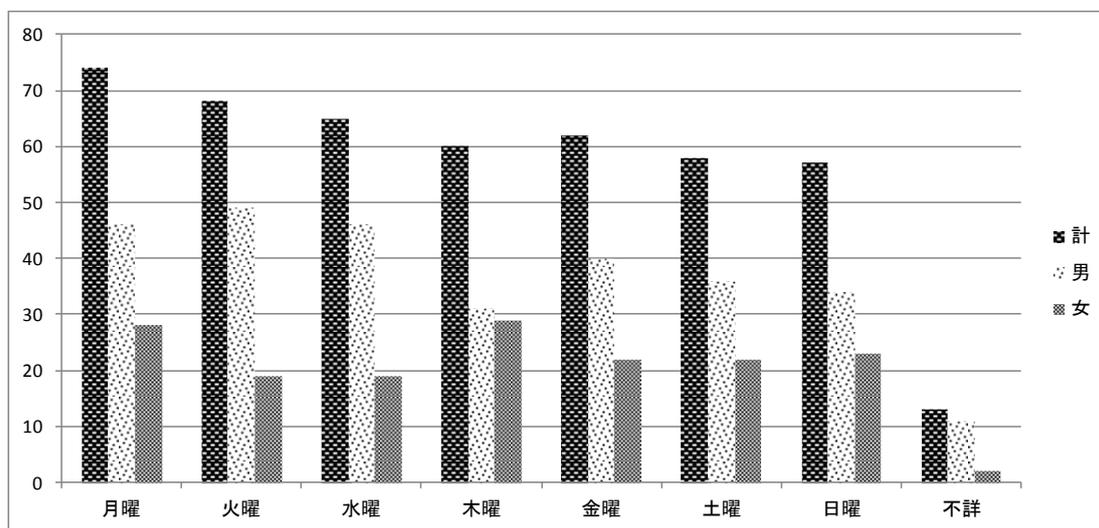


手段別・男女別自殺者数

手段	首つり	服毒	練炭等	飛降り	飛込み	その他	不詳	計
計	236	12	17	131	7	53	1	457
男	162	7	11	75	3	34	1	293
女	74	5	6	56	4	19	0	164

(8) 曜日別・男女別自殺者数 (内閣府・警察庁統計)

男性では月曜、火曜に多く、日曜に少ない傾向がみられたが、その他の曜日は年により変動がみられる。女性については、年による変動が男性より大きい傾向がみられる。

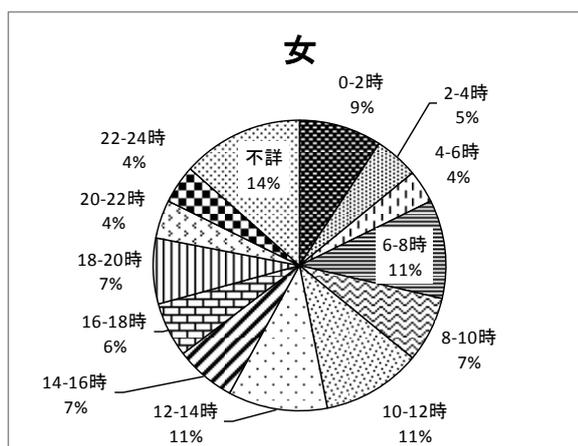
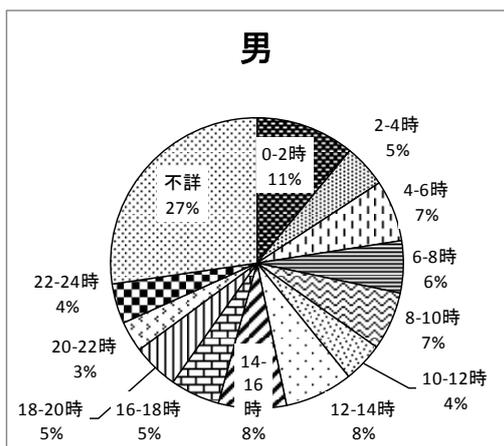
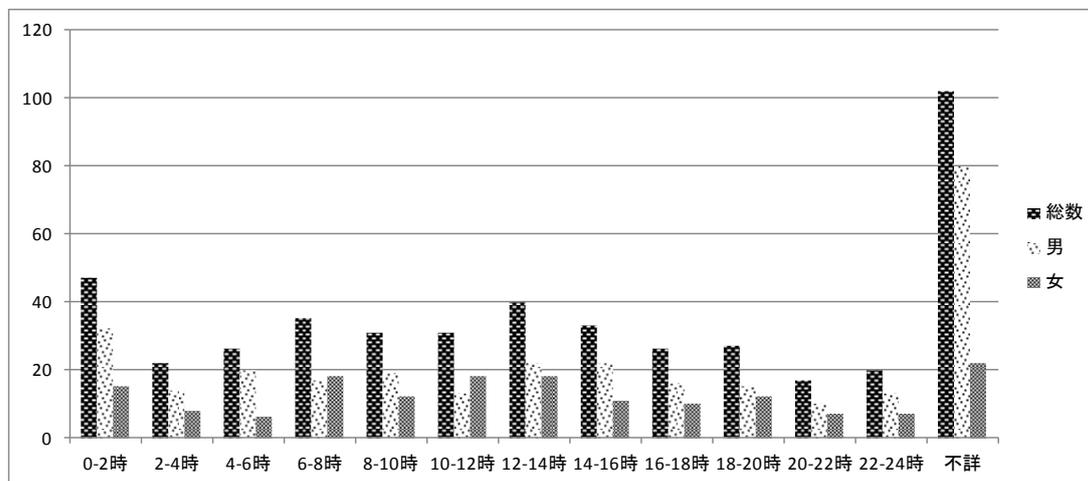


曜日別・男女別自殺者数

曜日	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜	不詳	計
計	74	68	65	60	62	58	57	13	457
男	46	49	46	31	40	36	34	11	293
女	28	19	19	29	22	22	23	2	164

(9) 発見時間帯別・男女別自殺者数（内閣府・警察庁統計）

全国的には6時から20時までに多い傾向があり、本市でも同様であるが、年により変動がみられる。



時間帯別・男女別

時間帯	0-2時	2-4時	4-6時	6-8時	8-10時	10-12時	12-14時	14-16時	16-18時	18-20時	20-22時	22-24時	不詳	計
総数	47	22	26	35	31	31	40	33	26	27	17	20	102	0
男	32	14	20	17	19	13	22	22	16	15	10	13	80	293
女	15	8	6	18	12	18	18	11	10	12	7	7	22	164